

令和元年度 第3回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和2年（2020年）3月27日（金）10時00分～12時00分
- 2 場 所 長野県白馬高等学校会議室
- 3 参加者 委員10名（下川委員欠席。代理に横山副村長）
この他、長野県教委駒瀬高校改革推進係長・宮澤主幹指導主事
白馬・小谷両村関係者 6名
白馬高等学校職員 4名

4 次 第

- (1) 開会の言葉
- (2) 長野県教育委員会あいさつ（駒瀬高校改革推進係長）
- (3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）
- (4) 報告事項
 - ・白馬高等学校より（臼井校長）
 - ・白馬山麓事務組合より（平塚局長）



5 意見交換

<伊藤委員>

○SDGsの具体的取り組みについて村議会ではなかなか進まない。高校生から村に提案してほしい。
○きらびやかな所だけでなく、地元に根差したもの、地域の歴史・伝統・風習なども掘り起こして欲しい。北小学校のジャンプ台なども発信してほしい。

<学校長>

○SDGs提案は生徒ならやれると思う。地域の掘り起こしも1年生の授業で取り組んでいる。

<岸委員>

○学校が地域を変えていくところまで来ている。他校からの見学者はみな真似ができないという。
「自分たちに合うやり方」で若い人にとって魅力ある村づくりを提言して貢献してほしい。

<横澤委員>

○地域の産官学が一つになって白馬高校が活かされている。長靴を履いて土を踏んで学び、地域高校として胸を張って進んで行ってほしい。

<白戸会長>

○改編5年の区切りという観点からの発言もお願いします。

<宮嶋委員>

○任期を終えるが地域代表として参加して、白馬高校のことがよく分かったので地域の親たちにも伝えることができる。白馬高校生は卒業後にはこの地域の良さを外に広めて行ってほしい。

<白戸会長>

○教育というのはすぐに成果が出ない。松本大学も20年を経て地元定着型の大学になってきた。
地域に根付かないのは、就職口が無いからではなく、ここにいることに価値観を見出していないからではないか。起業家の逞しさが必要。

<加藤委員>

○非常に危機感を持っている。あそこに行けば・・・と分かってもらうにはまだ時間がかかる。
内輪で評価されているだけではなく外で認知してもらえる活動を考えていかなければ。

<武田委員>

○みんなで1本の芯を通して子どもを育てていくことが大切。生徒も安心できる。3年生を見てあんな人になりたいと1年生が思えるような学校になればいい。

＜学校長＞

○課題解決委員会を今年度から作った。きめ細かい情報交換ができるよう大職員室を作ることに
なった。

6 協議・確認事項

(1) 令和2年度長野県白馬高等学校経営方針（案）について

＜学校長＞

○令和2年度の経営方針は次年度の第1回運営協議会で示したい。

(2) 令和元年度学校運営協議会の活動のまとめについて

＜学校長＞

○資料p.22に第1, 2回の協議会のまとめを掲載している。

(3) その他

＜岸委員＞

○重点目標を分かりやすく「ここが違う」というものを出してほしい。

＜横澤委員＞

○初めて参加した。村民にも報告したい。気候変動宣言を受けた協議会へも高校生に参画してもらう
準備をしている。

＜中村委員＞

○時代が大きく変わっている。5年経ち課題も見えてきている。いかに魅力のある高校にしていくか。
県教委、村、学校が一つの方向に向かうべき。できないではなくどうやって行くかを考えよう。

＜白戸会長＞

○若い子どもを育てることは周りに迷惑を掛けることだと思う。広く村民にも理解していただく努力
も必要。

7. 閉会のことば（西沢教頭）

今年度委員任期は4月末まで。次年度委員は規則に則って選任する。